



# にじのはし幼稚園 園だより



令和6年7月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 飯田美弥

早いもので、1学期の最後の月となりました。保護者の皆様、地域の皆様には、いつも様々な形でご協力いただき、ありがとうございます。6月に行われた「にじっこまつり」では、5歳児のお店に加えて、地域の方のお店と係の保護者の方のお店もあり、未就園児の親子や、近隣の保育園の子どもたちも一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

親子わくわくデーでは、短い時間ではありますが、親子と一緒に幼稚園で過ごす時間を作っていただいたことで、お子さんにとっては園での楽しい思い出が増え、お家の方にとっては、我が子と触れ合いながら、他のお子さんや保護者の方と楽しい時間を過ごしていただけたのではないかと思います。今回残念ながら欠席だった方は、次回は是非万障お繰り合わせの上参加していただければと思います。長い園生活の中のわずか1時間程の共通体験が、お子さんにとっては大きな支えになることもあるからです。

幼稚園では意図的・計画的に保育参観や保育参加の機会を設けています。是非活用していただき、園での生活を知っていただけたらと思います。



にじのはし幼稚園は、幼児、保護者、地域との信頼関係を基盤に幼児の学びを支えます。

## 子どもの自己肯定感を主体的に育む保護者

- ① 子どもの思いや成長に気付き、子育てに喜びを感じる
- ② 生涯発達の鍵となるアタッチメント(子どもと養育者の間の情緒的なつながり)を築き、安心・安全の基地となって子どもを支える
- ③ 学級の子どもたちの成長を先生や保護者同士で喜び合う
- ④ 幼稚園の教育活動に理解や協力をし、園や地域と共に子どもを育む  
(幼稚園経営計画 3 幼稚園経営の方針より)

数学者の秋山仁氏は、幼児教育じほう 2023年1月号で、次のように述べています。

「子ども時代に感動した原体験こそ創造力や自分で工夫し考える力の源になると思います。」「だからこそ、子どもたちを幼少期から技能的な練習に追い立てることよりも、普段から自分の頭で考えたり、感じたりする素養や感性をじっくり育むことが大切だと考えます。」「そのためには、大人が指示したとおりに行動させることに主眼を置くのではなく、子どもたち自身が疑問を持ったり、質問したり、考えを持つことを大切にしてほしいです。それによって、子どもたちは自分に自信を持ち、自然と自己肯定感が育まれるのです。完全な答えにたどり着けなくても、大人と一緒に考えたり調べたり確かめたりしてあげてほしいです。そして、世の中、自然の中には面白いもの、不思議なものがたくさん溢れていることを実感させてほしいです。」

夏休みは是非、様々な体験をする子どもたちに寄り添い、アタッチメントを築いてほしいと思います。どんなに園で工夫して保育をしたとしても、子どもの安全基地となるのは保護者の方です。大きな心で受け止められた子どもたちは、安心して次の挑戦ができます。

保護者・地域の皆様には、1学期の間、親子活動や行事、PTA活動、係活動等々、本園の教育にご理解・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。長い夏休みも、本園の子どもたちをあらゆる場所で見守っていただけると幸いです。これからも「信頼する大人のもとで幼児自身が実践し体験すること」を園・家庭・地域で支えていきましょう。